

- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日:H16.11.7
- 構成員数:32人
- 全体構想作成日:H18.3.31
- 実施計画作成日:H18.10.30
(H30.3現在)

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会

再生 目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する。

本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。



【事務局】

730-8511
広島市中区基町10-52
広島県自然環境課
野生生物グループ内
電話:082-513-2933

活動報告

「ヒメシジミ」を湿原の指標種とした考察 【報告者】認定NPO法人西中国山地自然史研究会 上手 新一

I. ヒメシジミの生息分布と生態

湿原再生に向けた事前調査として、2004年に八幡原地区のヒメシジミの調査が行われ、比較的広い範囲に推定2,000個体前後と報告された。その後、八幡地域周辺の生息分布状況も把握し、2006年には、水田國康氏とともに湿原周辺の幼虫の食餌植物として、マザミと合わせて新たにヨモギから幼虫を見出し、広島県内における初めての発見があった。

II. 霧ヶ谷湿原のヒメシジミの概況

2009~2010年には石谷・水田氏によるチョウ類トランセクト調査が行われ、「ヒメシジミが多産していた沿道の路肩を中心とした密度の推定では工事前・後とは特に大きな変化がみられなかった」とされた。2015年には湿原内のヒメシジミ成虫の個体数推定のマーキング調査を行い6月中旬には歩道周辺で200個体を記録した。(推定300個体以上)

III. 今年の発生状況と今後に向けて

2018年は、6月上旬から発生し、6月13日遊歩道沿いで30個体以上を目視確認。その後、6月24日には同じ場所で100個体以上を確認。7月2日は、80個体以上確認し、メスの比率は高くなっていった。その後7月中旬以降はほとんど確認できなかった。上記のことからも、ヒメシジミの発生期は、ほぼ毎年6月上旬からで盛期は6月中下旬となり、7月に入ると飛び古した個体とともにメス個体が増加するものの、その後の個体数は徐々に減少していくことが伺える。近年のモニタリング等において、生息個体数の増減はあまりないと思われるが、生息地が多少変化している傾向がある。それは、町道西側の荒地に多くの個体数が見られ、これはおそらくヨモギを主な食草としているのではと考えられる。しかし、ヒメシジミにとっては部分的ではあるが、湿原内の継続した草刈や低木の伐採などによりマザミの成長(繁茂)にも好影響を与えていると思われる。オープンランドとしての広がり合わせて生息し易い環境になりつつあると思われる。今後も継続した草刈や低木等の伐採のバランスをとった水回り環境整備による湿地化が望まれる。

【ヒメシジミ】

- 小型のシジミチョウで、翅を広げた大きさは3cm前後
- 広島県内の生息地は局所的で、概ね標高400m以上の湿地等に限られ、県の絶滅危惧Ⅱ類に指定
- 幼虫の食草は、県内では主にマザミを主食としている。

ヒメシジミ♂と♀(2018.7.2)

ヒメシジミの交尾個体(2018.6.24)

